

アクティブ・ラーニング環境の創造

常磐大学高等学校 新校舎 2012年6月着工予定



常磐大学高等学校

(完成イメージ図)

常磐大学高等学校でかねてより検討を進めていた新校舎の建築が開始する。新荘キャンパスの北側、4階建て鉄筋コンクリート造の校舎は2013年8月の竣工を予定している。耐震構造を重視し揺れの少ない設計となっていることはもちろん、環境にも配慮し、自然の力を最大限享受することでエネルギー消費量を削減することも見込んでいる。

機能面では、生徒たちが自ら学び、主体的に判断し行動できる能力を育む学習環境を考慮し、さまざまな取り組みが可能な工夫が施されている。各教科の特性を最大限に生かした教科教室には、それぞれの専門に対応する設備を備え、

豊かな表現力を育成するスタジオ型教室には、自由度が高く多様な教示スタイルへの対応が可能な設備を備えた。また、生徒の語らいや集いの場となるラウンジやフォーラム、教員の教材研究に対応し、教科担当者間の連携を深める教科教員室などが設けられる予定だ。アクティブ・ラーニング(能動的な学び)を実現する環境が整備されることで、一方的な知識伝達型とは異なる自ら課題を発見し解決していく双方向型の授業形態を積極的に取り入れることが可能になる。常磐大学高等学校ではこれからの時代に対応する先進的な教育の展開が期待される。

● 学生の意見を改善方策に生かす

● 2010年度「学生生活満足度調査」実施報告

常磐大学・常磐短期大学では、2010年度にすべての在大学生を対象とする「学生生活満足度調査」を行った。この調査は、大学・短大に対する学生の満足度や意見を明らかにし、学生生活や授業内容の充実と改善に役立てるために実施している。2006年度から2年ごとに実施しており、今回で3回目の調査となった。

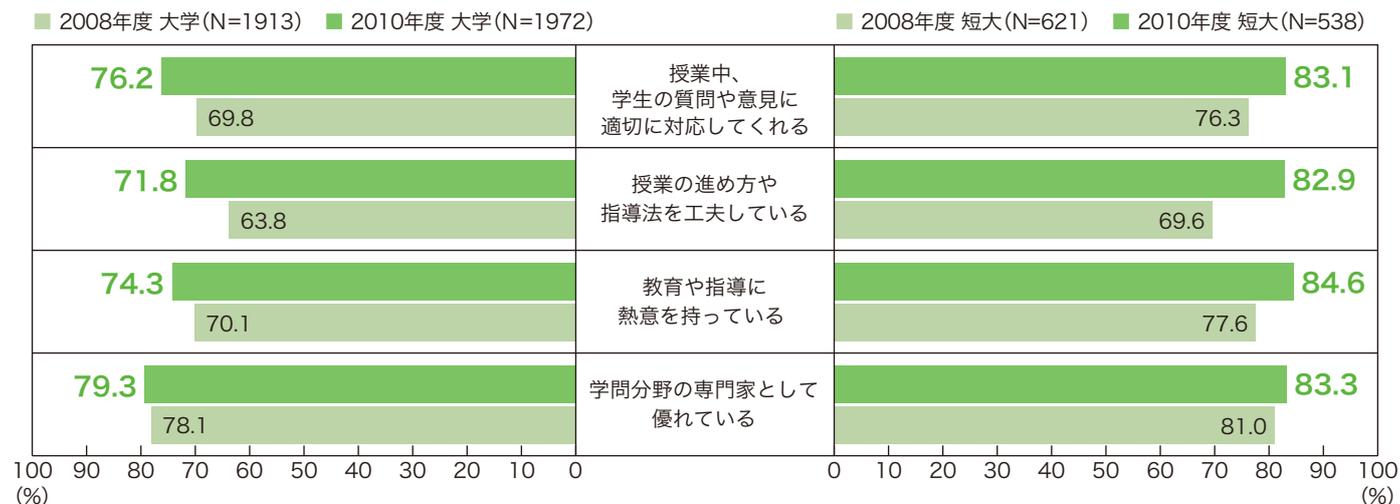
今回の調査では、ほぼすべての項目で前回調査よりも満足度が上昇した。特に教員の評価については、「授業中の質問や意見に適切に対応してくれる」「授業の進め方や指導法を工夫している」といった評価項目が大きく上昇しており、全学的な授業改善の取り組みや個々の教員による授業運用上の改善成果が出てきているといえる。

学生生活における不安を尋ねる項目では、昨今の厳しい社会状況も影響してか「就職のこと」が大学・短大共に一番高い。大学に対する要望としても「就職対策の充実」や「キャリア教育(資格取得支援も含む)の充実」を求める声が多くみられた。これまでも常磐大学・常磐短期大学では、キャリア形成の方向性と将来を考える科目やインターンシップなどをカリキュラムに配置するほか、学内会社説明会やエントリーシート対策講座など就職支援プログラムを実施してきた。今後の課題としては、就職や進路へ不安を持つ多くの学生に対し、きめ細かなサポートを提供し、望む進路の実現に向けた支援態勢をより強固にすることが重要だ。そのために、2011年度からは学生たちの進路支援・就職支援を強力にバックアップするため、学生支援センターからキャリア支援部門を独立させてキャリア支援センターを設置した。相談スペースを大幅に拡張し、就職試験筆記対策講座を開設するなどの充実を図った。さらに2013年度からは、全学的にキャリア教育科目をより充実させるカリキュラム改革を計画している。今後も学生の声を真摯に受けとめ、改善・改革に取り組んでいく考えだ。

〈大学〉

教員についての評価

〈短大〉



● 看板デザインを通してスポーツ振興に貢献

● ケーズデンキスタジアム水戸屋外看板に学生作品が採用

ケーズデンキスタジアム水戸(水戸市立競技場)の正面入口進入路の屋外看板(タテ3m×ヨコ5.4m)のデザインに、美術部の比企友里恵さん(人間科学部健康栄養学科2年)と、ときわ漫画研究会の須藤美和さん(コミュニティ振興学部地域政策学科3年)の作品が採用され、11月から掲出された。

水戸市と連携協力協定を結んでいる常磐大学では、財団法人水戸市スポーツ振興協会からの依頼で「陸上・サッカー・ラグビーの3競技を表現し、スポーツへの関心を高め、スポーツ振興を向上させるもの」というテーマで学生に作品を募集し、13作品の中から2作品が選出された。「掲示板なので目を引くように原色を使った」と話す比企さんの作品には、鮮やかなオレンジ・グリーン・ブルーの3色が使われ、躍動感が表現されている。漫画風のイラストを描いた須藤さんは「いろいろな人が見ることを意識して、かわいらしい感じにした」と話した。ケーズデンキスタジアム水戸にお越しの際には、ぜひ看板にも目を向けてほしい。



▲看板前に立つ比企さん(写真右)と須藤さん(写真左)。

水戸市のブランド力向上施策を学生の視点から提案

●「水戸ブランド構築事業・常磐大学との連携による発表会」開催



▲斬新な提案を行う学生たち。

常磐大学と水戸市が締結した連携協力協定に基づく「水戸ブランド構築事業」学生提案発表会が、12月6日にQ棟センターホールで開催された。この発表会は水戸市が推進する「ブランド構築事業」の一環として行われたもので、地域の資源を活かし経済を活性化する提案を学生の視点から行うことがテーマ。学生たちは、他地域の先行事例調査、現地調査、「水戸ブランド構築事業」プロジェクトチームとの中間報告会などを踏まえ発表会に臨んだ。

プレゼンテーションを行ったのは国際学部経営学科村中均助教のゼミナールに所属する学生2チーム。両チームとも水戸市の強みや弱みなどの分析からコンセプトを立案し、偕楽園、梅、水戸黄門、納豆を魅力的にプロモーション

健康栄養学科での学びをもとにヘルシーメニューを考案

●ヘルシーメニューコンクール優秀賞受賞

茨城県が主催する「ヘルシーメニューコンクール」で人間科学部健康栄養学科3年の安部早由里さんと齊藤美里さんが優秀賞を受賞し、1月19日に開催された「いばらき食育推進大会」で表彰を受けた。学生のほかに現役の管理栄養士や調理師などから計34件の応募があった。

「赤・白・緑など彩りを意識したことが評価されたと思います」と齊藤さんは味はもちろん見た目にも配慮した。今回はエネルギー・食塩量・野菜量

に制限があり、そのうち2つ以上の基準を満たす必要があったが、2人はすべての基準を満たした。ただ、塩分を控えるとおいしくないのでは、安部さんは「塩分の多い味噌汁の汁を少なくするために具だくさんのさつまいも汁にした」と工夫した点を語った。人々の生活が豊かになるようなサポートができる管理栄養士になりたいと語る2人のこれからの期待したい。

▼安部さん「ヘルシーあったかご飯」高齢者向けに野菜を多用し食物繊維が多いメニュー。



▼齊藤さん「ヘルシーランチプレート」ハンバーグは鶏肉と大豆を使用して低カロリー・高栄養に。



ボランティア活動を通してコミュニケーション力を磨く

●勝田全国マラソン大会運営に貢献

第60回勝田全国マラソン大会に、コミュニティ振興学部コミュニティ文化学科の「生涯学習実習II」履修者を中心に、計28人の学生がボランティアとして、大会運営に従事した。

大会前日は、本部設営や記念品搬入などを担当し、1月29日の大会当日は、ゴール周辺で完走者への記念品配布やランナーの誘導などの係を担当。勝田全国マラソン大会は、全国から2万人以上の参加者を受け入れる大規模なマラソン大会で、運営に携わるボランティアの数も多い。学生たちはチームを組んで、円滑に大会が進むように作業に取り組んだ。コミュニティ振興学部コミュニティ文化学科3年の生天目咲弥さんは「ゴールした選手へお疲れ様と

という気持ちとゴールした喜びを共に分かち合えたらよいと思い、声かけや笑顔を心がけました」と話した。また、同学部地域政策学科3年の小池智裕さんは「多くの方々と接する機会が多かったので、コミュニケーションの重要性と仕事に対する責任感を改めて実感しました」と語り、ボランティア活動を通して気づきの機会を得ることができた。



▲走り終えたランナー記念品を手渡す学生たち。

Tokiwa Interview

第14回 常磐フォーラム（2011年10月11日開催）より

世界の中の「いばらき」

橋本 昌氏

（茨城県知事）

激化する国際競争の中で、これからの日本はどのような方向に進むべきなのか。また、その中で果たすべき茨城県の役割とは何か。茨城県知事の橋本昌氏にお話を伺った。

「現在の日本がおかれている立場は、決して良いものとはいえません。エネルギーや食料の自給率は低く、GDPの世界シェアも下がってきている。国内状況も少子高齢化が進み、このままでは社会を維持していくこと自体が大きな課題になると思われます。また、国民の労働賃金も伸び悩んでいます。欧米やアジア各国では上昇傾向にありますが、日本はデフレ状況の中で、ここ数年間、ほとんど横這いのまま。正規社員と非正規社員との賃金格差が大きくなっていくにもかかわらず、労働者の3人に1人は非正規社員で、その5割が不本意就業だというデータもあり、このような不安定雇用が増えることは、日本の堅実な社会を作る上で大きな障害となります。こうした状況の中で日本を変えていくためには、教育が大きな役割を担っていると思います。日本が世界に誇れる資源は人間の頭脳です。既存する産業の延長線上に無いような、非連続的な発想に基づく研究・開発を行い、外貨を獲得する必要があります。そのためには、学校法人常磐大学が教育の基本理念として掲げる『世界的な視野で考え、行動できる人間』を養成することが重要です。しかし、現実的には若者の海外志向は低下し、海外で働きたくない、留学したくないという若者が増えています。海外志向を持った学生を育成しなければなりません」

このような状況の中、日本は国際社会における存在感を確保する必要がある。そこで政府が打ち出したのが『科学技術創造立国・日本』だ。

「科学技術創造立国を支えるのは茨城県だと考え、さまざまな取り組みを行っています。例えば東海村

国際社会における存在価値を確立するため

に“J-PARC”という大強度陽子加速器施設があります。この施設は中性子を使って原子や分子をこれまでとは違った仕組みで見ることができると、生命科学の分野などに大きく貢献します。このプロジェクトは日本原子力研究開発機構や高エネルギー加速器研究機構などの共同プロジェクトですが、その一部を茨城県が整備しました。その理由は学術研究だけではなく、実用的な研究に結びつけるためです。この施設を産業利用することで、治験や新薬の開発などが飛躍的に効率化します。また、筑波大学では「HAL」というロボットスーツが開発されました。さまざまな分野で応用可能な革新的な技術であるため、茨城県でも継続的な支援を進めていく計画です。さらに、それと並行して高速道路や港湾などのインフラ整備を行い、企業の誘致活動にも力を入れています。その結果、過去10年間の工業立地面積は全国1位、県外企業の立地件数も6年連続で日本一となりました。働く場を確保し雇用を創出することで、交流・定住人口の増加も見込まれます。また、教育の分野でも積極的な取り組みを行っています。特に外国語の習得を中心とした国際理解教育と理数教育を重点的に支援することで、国際競争に勝てる人材を育成する考えです。今後の日本、そして茨城を担う学生の皆さんには、自分から積極的に色々なことに挑戦していただき、世界的に活躍されることを期待しています」

日本が目指す科学技術創造立国の重要な一翼を担うのは、他でもない茨城県なのだ。



はしもと・まさる ●1945年生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省（現・総務省）入省。福井県財政課長、山梨県総務部長、自治省消防庁消防課長、財政局公営企業第一課長などを歴任。1993年9月、茨城県知事選に出馬、初当選（現在5期目）。全国知事会副会長、全国港湾知事協議会会長、茨城県日中友好協会会長、茨城県観光物産協会会長。

●2011年度卒業予定者の就職状況

2011年度は、東日本大震災、タイの洪水、欧州危機などが日本経済にも多大な影響を与えた年となったが、求人数などは、昨年度より若干増加した。しかしながら、求人内容は福祉系やIT系が多い中で、必ずしも学生の希望に沿った求人内容ばかりではない現実もある。そういった中で、キャリア支援センターも学生とともに「働くこととは」を一緒に考え、それぞれの答えを導くお手伝いをしたい。低学年にはキャリアデザイン講座、高学年には多彩な就職支援プログラムを用意しているので、是非多くの学生に参加してもらいたい。

主な就職内定先 (2011年度卒業生)

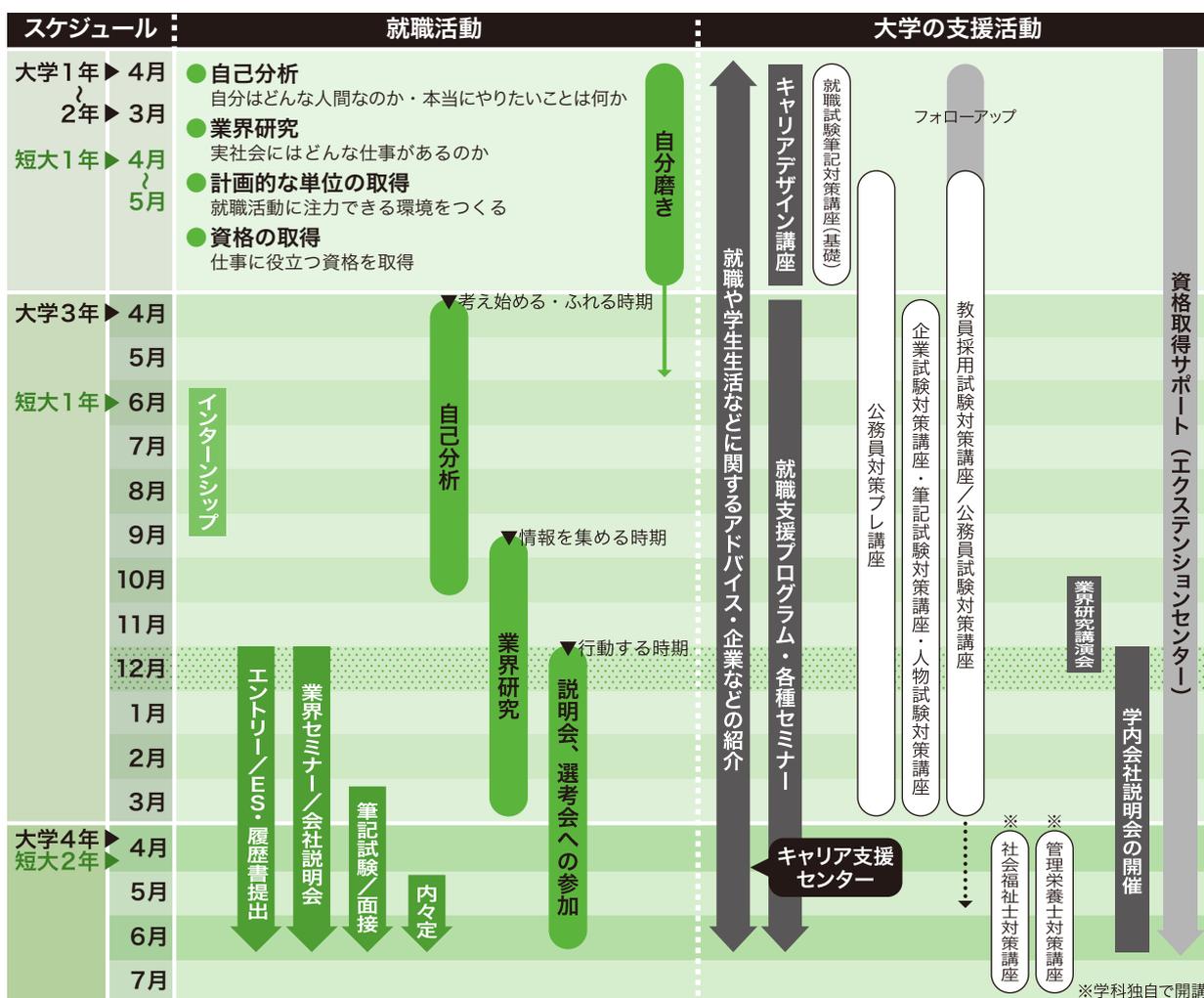
【常磐大学】

製造業	ネスレ日本株式会社 富士重工業株式会社
運輸・郵便業	東日本旅客鉄道株式会社 日立建機ロジテック株式会社
卸売・小売業	関研商事株式会社 P&Gマックスファクター合同会社 茨城トヨタ自動車株式会社
金融・保険業	株式会社常陽銀行 株式会社筑波銀行 茨城県信用組合 水戸信用金庫
医療・福祉	財団法人茨城県メディカルセンター
複合サービス事業	JAグループ (JA水戸、JA土浦 他)
サービス業	水戸商工会議所
教員	茨城県公立小学校、千葉県公立小学校、 いわき市公立幼稚園
公務員	警視庁、茨城県警察本部、陸上自衛隊、 茨城県庁、栃木県庁、ひたちなか市役所、 銚田市役所 他

【常磐短期大学】

製造業	日立交通テクノロジー株式会社 リコープリンティングシステムズ株式会社
電気・ガス・ 熱供給・水道業	筑波学園ガス株式会社
情報通信業	株式会社日立データセンター 株式会社 JR 東日本リテールネット
卸売・小売業	茨城トヨペット株式会社 関東国分株式会社
金融・保険業	株式会社三井住友銀行 株式会社常陽銀行 株式会社福島銀行
医療・福祉	公益社団法人地域医療振興協会 日立東海病院 株式会社日本医療事務センター
複合サービス事業	JAグループ (JA水戸)
サービス業	株式会社モビリティランドツインリンクもてぎ
教員・公務員	日立市公立幼稚園・保育所 常陸太田市公立幼稚園 銚田市公立幼稚園・保育所

★1年生から内定までの就職活動スケジュール



常磐大学

News!

国際学部の学生が京成百貨店でイベントを開催



実際に試すというアイデアは好評を博していた。

国際学部経営学科で商業・マーケティングを専攻する学生たちが、1月14日、15日に京成百貨店でイベントを開催した。このプロジェクトは「ビジネス専門実習」の授業として行われたもので、企業の利益も視野に入れた指導が行われる。自分の考えを否定されることもあるという学生にとっては厳しい授業だが、現実の社会で活躍するために必要な多くのことを学ぶ貴重な機会となっている。

実施されたイベントは、便利なキッチングッズをお客様に使用していただき人気投票を行う「アイデアグッズ総選挙(写真①)」、男性から女性へのプレゼントを学生が提案し、ギフト用品の購買意欲の向上を図る「KEISEIで逆パレ

ンタイン!(写真②)」、スタンプラリー形式で、防災グッズに触れながらお客様に防災を学んでいただく「親子で学ぼう!防災アドベンチャーラリー(写真③)」の3企画。すべて学生が考案し、スタッフとして運営まで行った。

京成百貨店・営業企画担当の糸井隆彦さんは「このイベントを通して実社会での経験を積み、大学の授業だけでは得られないスキルを身につけていただきたいと思います」と話していた。



学生の視点でギフトの提案を行った。



防災グッズを紹介する学生たち。

常磐大学 高等学校

News!

吹奏楽部ボランティアコンサート実施

吹奏楽部では12月25日に石岡市の障がい者支援施設「光風荘」でボランティアコンサートを実施した。この施設は、生活介護や施設入所支援、自立訓練を行っている事業所で、視覚障がい者の方も多く入所している。この日は、入所者の方とそのご家族、普段ボランティアに関わっている方など、約200人が本校吹奏楽部の生の楽器演奏の迫力を楽しんだ。

曲目はクリスマスにちなんで「もろびとこぞりて」「ひいらぎ飾ろう」「きよしこの夜」「ジングルベル」などのクリスマスソングメドレーや、最近の話題曲「マル・マル・モリ・モリ!」、入所者の皆さんからのリクエストで「世界に一つだけの花」を演奏し、客席の皆さんも一緒に歌ったり踊ったりして、



クリスマスの雰囲気味わっていただいた。「指揮者コーナー」では入所者の方に指揮をしていただいて、指揮者体験を楽しんでもらった。最後は全員で「上を向いて歩こう」を歌って終演となった。

吹奏楽部では、地域との交流の機会を大切に、今後も地元の高齢者施設や病院、幼稚園や学校などに出向いて「出張演奏会」を実施していく予定である。

◀日頃の練習の成果を存分に披露する部員たち。



智学館中等教育学校

News!

百人一首カルタ大会開催 —古典に親しむ機会に—

今年で4回目になる百人一首カルタ大会が開催された。智学館では1年次より古典に触れる機会を設け、2年次より和歌の読解にも挑戦していく。毎年、寒さの厳しい1月に実施されるが、今年も会場には歓声が響き渡り、熱い闘いが繰り広げられた。上級生ともなると上の句が詠まれるとすぐに手が伸びる。1チーム4人構成で覚える和歌を分担したり、みんなで語呂合わせをして覚えたり、と作戦はさまざま。冬休みに特訓してきた生徒もおり、年々レベルアップしている様子が見えた。今回は3年次2組笹崎



真剣な面持ちで取り札に集中する生徒たち。



渚音くんが詠み手として参加し、大会を盛り上げた。歴史的仮名遣いの読み方を練習して臨んだ笹崎くんは「初戦は緊張して声が小さかったのですが、時間とともに練習の成果を発揮することができたと思います。周りの人から『聞きやすかったよ』と言われたのは嬉しかったです。また、自分が上の句を詠み始めた瞬間に『ハイ』と札を取る音が聞こえたのには興奮しました。今回の経験を生かして、古典の学習にも力を入れていきたいと思います」と意欲的に語った。1、2年次生も先輩に臆することなく、予想以上の健闘が見られ、カルタクイーンに輝いた1年次の高橋りささん、2年次の大森美紀さんは圧倒的な強さで完勝。3年次では永井袖帆さん、佐々木励起くん、松山瑠菜さんがそれぞれトップの座に輝いた。

常磐大学 幼稚園

News!

子ども元気プロジェクト開催 —福島の子園児と交流—

「東日本大震災の影響から園庭でのびのび遊ぶことができない福島の子園児らに、思いっきり遊んでもらう環境を与えてあげたい」という思いを受け、福島県いわき市のあざみ野幼稚園との交流が実現した。提案者はNPO法人 with you 代表で常磐短期大学の安田尚道教授。

第1回(11月19日)は、あざみ野幼稚園の園児・保護者を常磐大学幼稚園に招き、常磐短期大学の鈴木康弘准教授、鈴木範之助教と学生が運動遊び、表現遊びなどを企画した。

第2回(12月10日)は、あざみ野幼稚園児と常磐大学幼稚園児が混合チームに分かれて、大学キャンパス内でオリエンテーションを実施し、昼食を一緒にとりながら楽しい交流のひとときを過ごした。

第3回(2月4日)は、大洗海岸にある「子どもの城」であざみ野幼稚園児17人、常磐大学幼稚園児30人がグループに分かれ、うどんづくりをしながら



みんなで仲良くうどん生地を延ばす。



大きな包丁でうどんを押し切る園児。

ら交流を深めた。粉に塩水を含ませる、まとめてこねる、足で踏み延ばし、麺棒で広げる、うどん包丁で押し切るという工程を一人ひとりが経験し、常磐短期大学の学生ボランティアが茹であげた。手作りの個性あるいろいろな太さのうどんは、格別の味わいだった。午後からはアスレチックと一緒に遊び、あざみ野幼稚園児から心のこもったメッセージカードをプレゼントされた常磐大学幼稚園児はたくさんの笑顔を見せた。これらの活動を通して結ばれた絆を大切に、このプロジェクトで培われたおもしろい心を今後も何らかの形で引き継ぎ、持ち続けてほしい。

寄付者ご芳名 (敬称略) [2011年10月~12月受付分]

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

■教育実践研究所の行う事業支援

個人	
400,000円	諸澤 篤子 *
累計寄付金額 400,000円	

■諸澤幸雄奨学金の創設・充実

個人	
320,000円	23,000円
竹中 治利 *	久松 雄大 *
200,000円	20,000円
李 精	近藤 誠
180,000円	18,000円
中村 和彦 *	坂井 知志 *
120,000円	10,000円
保坂 泰夫 *	竹内 明子
100,000円	芳名のみ公表
故) 小林 光子	伊佐山 忠志
50,000円	石田 喜美 *
佐藤 憲明	木村 賢一
宮内 典仁	工藤 典人 *
48,000円	黒澤 幸子
大槻 行徳 *	清水 敏成 *
関 敦央 *	関 いづみ *
24,000円	千葉 茂 *
清宮 一彦 *	堀口 秀嗣 *

企業	
500,000円	株式会社西山工務店
累計寄付金額 67,265,326円	

■学校法人常磐大学東日本大震災被災学生・生徒支援義援金

個人	
	500,000円
	森 征一

その他	
2,523円	常磐大学交換留学生クリスマスパーティーチャリティ募金
累計寄付金額 5,629,523円	

◎複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付し、金額は累計額を表示いたしました。

【寄付金の申し込みおよび問い合わせ】

学校法人常磐大学 会計経理課

TEL. 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp

*寄付募集の詳細については、ホームページをご覧ください。

編集後記

第14回常磐フォーラムの講師としてお招きした茨城県知事の橋本昌氏は、講演の中で、人的資源の重要性と教育機関が担う役割に触れられました。いまだ低迷する日本経済ですが、新しい日本をつくるのは私たち一人ひとり。一日も早く春が訪れるよう、社会に貢献できる人材の育成に努力していきます。



・卒業生センター便り・

ホームカミングデー開催

常磐大学、常磐短期大学、常磐大学高等学校の各卒業生が母校に集う

卒業生と恩師が母校に集う「ホームカミングデー」は、母校が卒業生を温かくお迎えする日です。未曾有の大震災の経験から「絆」をより深く考えさせられた今年度は、新規開催もあり各学校において卒業生が母校に集いました。

大学では、10月29日に人間科学部9期生(1994年度卒)、11月26日には国際学部として初めて、1期・2期生(1999年度・2000年度卒)を対象に開催され、短期大学では、12月18日に幼児教育保育学科の新卒者2010年度卒業生を対象に開催されました。



国際学部1期・2期生と先生方

また、高等学校では5年ぶりの開催となり、卒業して4年目の60回生(2007年度卒)を対象に、2月4日に高等学校近くの常磐大学同窓会館において行われました。

それぞれが在学中の懐かしい映像を見て学生時代を思い出しながら、卒業生・教員ともに再会を喜び、旧交を温めて、同じ学び舎で過ごした者の「絆」を確認し合えた素晴らしい時間でした。近況報告や校歌斉唱、施設見学など、笑顔の絶えない和気あいあいとした雰囲気で大いに盛り上がりました。

このホームカミングデーは、各学校の同窓会と協力しながら、今後もさまざまな形で開催を予定しています。是非ご参加ください。

当日の様子はホームページに掲載しています。

<http://www.tokiwa.ac.jp/aac/homecoming/>



高等学校60回生と先生方

HOMECOMING DAY ~つなぐ常磐の輪